

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、常に見やすい玄関先、ホール、事務所に掲示してある。開設以来の事業所の理念だが、六月の職員会議では、「利用者中心の介護」について意識統一をした。理念に関連した議題を職員会議で取上げ意見交換を行ったり、毎月の目標に掲げたりして理念の実践に努めている。	運営者、管理者は折に触れ事業所の運営や理念について語っています。また、毎月の会議では理念に関する意見を出し合い、方向性を一つにしています。掲示や苑報等で地域や入居者家族等に事業所の理念を伝えていきます。事業所の理念は自分自身はどうかと考えさせられるものであり、それに沿って一生懸命目指しており、素晴らしい理念だと職員から伺うことが出来ました。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶だけでなく、町内会のイベント等にも積極的に参加している。近隣の方にはおみやげや天麩羅等のおすそ分けを届けたり、土日等には小学生が遊びに来たり、日常的な地域交流がある。また、防災の観点から、近隣宅に連動式の煙探知機を置かせていただいたりもしている。	区域にある学校が「子供110番の家」の場所確認で廻ってきた時にはその活動の目的を説明をしています。広い駐車場は近隣住民の冠婚葬祭等に貸したりまた災害時の避難先にもなっています。地区の行事や活動には積極的に参加しています。また事業所には様々なボランティアや子供達の訪問もあり日常的に地域と親しく交流しています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター100万人キャラバンの、キャラバンメイトの職員が二名おり、ボランティアの方と数名の地域住民にサポーター養成講座を開催した。現在、地域包括支援センターと共同で、地域住民へのサポーター養成講座の開催を企画している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況が判るように苑内の一角で運営推進会議を開催している。取り組んだ内容説明だけでなく、地域情報の意見交換を行い地域交流の一環ともなっている。	市担当者、地域住民や家族の代表等関係者が集まり定期的に会議を開催しています。会議では事業所の活動や入居者の現状等の報告と議題(持ち越し議題、前回の報告も含め)について意見交換するなど双方向的な話し合いが行われています。参加者からの意見や要望はサービス向上に活かされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では市の職員は年一回位のペースで参加していただいている。また、定期的に運営推進会議録を自主的に提出しており、その場での報告も行っている。日常的には、代表者と介護保険担当者が連絡しあっている。	市は年一回、代表者を集めてのグループホーム連絡会を開き、情報提供等の場を設けています。市の担当者には運営会議の議事録や苑報便りを届けながら事業所の現状を報告しています。また相談ごとがあればその都度連絡を取るなど事業所は積極的に連携を深めています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年八月の職員会議で身体拘束防止の研修を行い理解を深めただけでなく、意識調査を定期的に行ない、自分に置き換えて考える等して、知識が劣化しないよう取り組んでいる。また、玄関は夜間のみ施錠し、日中はさりげない見守りで自由に出入りしていただいている。	「自分がされたり、言われて嫌なことは何か」、定期的に意識調査を行いながら目に見えない拘束や行動制限の意識付けが行われています。入居者一人ひとりが気持ちよく生活できるように日々、入居者本位生活を支援しています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年十月の職員会議で研修を行い、理解を図った。意識調査等であがった不適切ケアは、職員同士で指摘しあう様に努めている。職員のストレス緩和については、企画した親睦会の参加者が少なく、現在は班長以上の職員がアンテナを張り、必要に応じて話を聞くようにしている。	毎年、幹部から職員に高齢者虐待防止関連法の説明が行われており理解や周知徹底が図られています。また、心身の健康管理にも留意し、職員一人ひとりが向上心を持って働けるよう取り組んでいます。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年三月の職員会議で研修を行い、知識の共有化を図った。現在、成年後見制度を利用している利用者は一名であるが、介護保険を利用している事においても、全員の利用が好ましいと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容をゆっくりと時間をかけ家族へ説明し、理解と納得をいただいている。改定の際は書面にて報告を行い、不明点については直ぐに答えるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置している。また、日常生活の些細なトラブルも、苦情として取上げ検討を行いサービス向上に役立てている。居室担当は、毎月の手紙や受診結果を直ぐに連絡する等、家族とためにコミュニケーションをとるようにしている。八月に家族に一斉アンケートを行い、希望を取り入れ実施献立一覧を毎月送るようにした。	月末に入居者と一緒に避難訓練した後、お茶を飲みながら話し合っています。そこから出た意見や要望をサービスに反映させています。家族等の面会の折には積極的に声をかけて何でも気軽に言って貰えるような雰囲気作りにも努めています。頂いた意見、要望等は皆で話し合い、職員教育や運営に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で要望、意見を聞く機会を設けているが、意見は出辛い。前回の自己評価や個人面談での意見を上げたり、日々の業務中の発言を上げたり、要望ノートを新たに設けたりして意見を聞く工夫をしている。アイデアを反映して、苑内の文化祭開催等に繋がるがあった。	職員会議では管理者の話の後、議題に沿って活発な話し合いが行われています。入居者に関する気付き、外出や催し物など行事の計画には職員の意見が反映されています。管理者は職員の様子から必要に応じて面話し話を聞くようにしています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年六月に職員の個別面談を行い、就業環境等について希望を聞く機会を設けているが、職員個々の努力や勤務状況を完全には把握出来ていない。報奨金や慰労会の設置もない。しかし、就業規則の提示や個々の勤務体制、時間の配慮は出来る限り行なわれている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議やユニット会議で施設内研修を行っている。また、職員のレベルに合わせて外部研修に参加できるよう取組んだり、資格所得への支援や自己学習への支援の機会の確保にも努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流や社会福祉士会の活動から、ネットワークが広がりつつある。グループホーム協会に加入していないので、勉強会の機会は無いに等しい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問はなるべく生活の場に直接出向き、思いを尊重・傾聴し十分な情報収集を行いながら安心して頂けるようにコミュニケーションを取っている。また、なじみながら入居できるよう、可能な限り、本人・家族に何度か訪問していただくように声かけを行なっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や意向、要望また、現在に至った経緯、苦労等をゆっくりと聴取しその思いを受け止めねぎらいの気持ちを込めてお聞きしている。全職員が相談に対応できるよう、確実な情報の共有も行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各関係機関との情報交換や本人、家族から面接時に現状の聞き取りを行い、どのような事を求め、必要としているのか見極めをしている。場合によっては、必要に応じたサービスの紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の得意分野を活かし、頼りにしたり教えて頂いたりしながら互いを支えあう関係が築けるよう努めている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌の発行だけでなく、居室担当からの毎月の手紙により、入居者の生活の様子がわかるようにしており、家族と入居者の生活を共有できるようにしている。カンファレンスには家族に参加していただくよう働きかけ、共に介護計画を作成するスタンスで、本人を支えていく協力関係を築いている。	面会時には日頃の様子を伝えたりまた毎月の請求書と一緒に苑報と受持ち担当が書いた手紙を家族に送り情報を共有することで家族と一緒に本人を支えていく関係作りを図っています。可能な限り、介護計画書は家族等を交えての作成に取り組んでいます。家族からは本人の様子が手にとるように分かると事業所からの情報提供に対し大変喜ばれています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺を散歩コースに取り入れたり、ドライブの途中で入居前の住居を訪問する等、住み慣れた地域との関係が途切れないように取組んでいる。また、センター方式を活用して入所の際や面会のおりなどに家族に話を聞く等、随時本人の背景を探っている。	本人の生活歴や生活習慣、馴染みの場所や友人等に関する情報を家族や子供たちから聴取しています。入居後も情報を参考に馴染みの人との交流や場所との関係が継続できるよう個別支援を行っています。お盆やお正月の自宅への外出、外泊はご家族の協力を得ながら行われています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りや余暇活動など、あらゆる場面で利用者同士の支え合いや関わりが見られる。孤立等がなく楽しく心地よく過ごせるようさりげない配慮を心掛けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも再入居の相談に乗ったり、様子を確認して、可能な範囲でその後のフォローを行っている。入院された場合は家族の労をねぎらっている。転居先の担当者にセンター方式のアセスメントシートを渡し、生活が分断しないように情報提供している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、日常の何気ない会話の中から希望や意向を探っている。活動においては、選択肢を設け個別に意思確認を行ったり、確認が困難な方は、反応、表情で思いを組み取るようにしている。時には家族にアドバイスをもらい、職員間で情報の共有をしている。	日々の生活の中で積極的に話しかけて本人の思いや行きたい所、やりたい事を聞いています。意思表示が困難な場合は情報を基に本人の立場に立ち検討しています。本人がリラックスしているときは何でも話してくれることを職員らは承知しているのでタイミングを見ながら声を掛けて思いや意向などの把握に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、各関係機関からの情報や苑独自にセンター方式を改良したもので生活歴、環境等の把握に努めている。入居後は本人の言動や家族、また、以前の施設に直接出向くなどしてセンター方式に落とし込み、本人の背景を知るよう努めている。	入居者一人ひとりが歩んできた人生や家族との関わり、生活環境、習慣、趣味、考え方やこだわりなどの把握に努め、本人の理解に取り組んでいます。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排泄、健康面については、日々の記録と申送りにより、一人ひとりの生活リズムを把握している。生活面において、「できない」と決め付けず、根気よく個々に出来ることは継続してもらえよう努めている。月一回のユニット会議で職員間での情報共有を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題の把握には、センター方式のシートを使用しており、ユニット会議での意見や、隔月毎のモニタリングの結果も合わせて、関係者のアイデアを取入れている。カンファレンスには可能な限り家族に参加してもらい、本人の意向も踏まえ介護計画を半年毎に作成している。突発的な状態変化等の際は、随時計画を見直している。	入居者や家族等から暮らし方の意向をもとに、入居者が楽しく自立した生活出来るように意見を出し合い具体的な介護計画を作成しています。評価や遂行状況確認も定期的に行われており、入居者の現状に即した介護計画となっています。計画作成者は現在、入職後に資格を取得した2人を加え4人在籍しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、状態変化や職員の気づきなどは、個々の記録に残し、職員間で情報を共有し見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、受診の同行等柔軟に対応している。成年後見制度等の利用や、重度化した利用者の入浴サービスや訪問看護ステーション利用の相談に乗ったりした。また、利用者家族の宿泊や食事提供も行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やお祭りに参加したり、保育園の金管バンドの練習を見学したり、小学校の文化祭に訪問したりしている。地域住民のボランティアだけでなく、小学生が気軽に遊びに来たりもしている。防災の観点から、連動式の煙探知機を置かせていただいたり、除雪を近隣住民と行ったり、安心して生活できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の希望を確認し、利便性を考えて協力医院をかかりつけ医とする方が多い。協力医院からは月二回往診があり、緊急時は二十四時間対応して下さる。協力医院の診療科目で間に合わない場合は、家族の協力を得て、場合によっては同行するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居者、家族からかかりつけ医、専門療機関への受診や診察、往診の依頼があれば希望する医療が受けられるように関係医療機関と連携をとりながら支援しています。協力医の往診時には主治医が違う入居者もかかりつけ医の了解の下、一緒に診察を受けています。受診でも往診であっても情報提供書を作成し正確に状態を伝えています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師の配置がないため、毎日の健康観察を細かに行っている。協力医院の医師や看護師とは、すぐに連絡、相談できる関係ができており、適時往診に来てくださる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報交換を行い、本人、家族が安心して治療できるように、又、早期に退院できるように関係者と連絡を取り合い、連携を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、看取りを行わないことを説明している。また、カンファレンスの都度、終末期への意向を確認している。書面での重度化の指針がなかったため、現在作成中である。開設以来、看取った利用者は一名であるが、その他の方でも、主治医や他のサービスの調整を家族と話し合いながら出来得る限度まで対応させていただいた。	看取りを含めた、重度化についての指針がこの10月に作成され、数名のご家族から確認書を頂いています。必要性が生じた場合には医師、家族等と繰り返し話し合いが行われています。全員が話し合われた内容や方針を共有し利用者、家族に寄り添う支援を提供しています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDを使用した救急救命の訓練を利用者も交えて毎年八月に行っている。また、マニュアルも整備されている。しかし、日常的に起こりうる、誤飲、意識低下、転倒骨折、低血糖等の対応については不安がある。協力医療機関と相談のうえ、実技指導が必要と感じている。	事故や緊急の場合はかかりつけ医または協力医療機関において速やかに必要な治療、緊急入院が受けられる体制が構築されている。職員は毎年、消防署の協力を得て救急救命法の訓練を受けて緊急に対応できるよう取り組んでいます。	職員は特に夜間の事故や緊急事態に対する不安を感じています。早めに知識を含めた実技指導が受けられるよう望みます。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月末に、利用者と共に防火訓練、地震や夜間想定防災訓練を行っている。地域の消防団に施設内部の点検と利用者の特性を説明したが、協力体制までには至っていない。近隣宅に、連動式の煙探知機を設置したり、町内会の防災訓練に利用者に参加するなど独自の対策を講じている。	消防署の指導を受けながら年2回(昼間、夜間想定)入居者と一緒に避難訓練、消火器の取り扱いや通報訓練なども同時に行われています。毎月、夜勤者のイメージトレーニングを兼ねた避難訓練を行うなど万全な対応に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症やプライバシーについては、定期的に研修を行っている。毎月の職員会議や、毎月の目標に取り上げたりして、さりげない介護を心がけている。不適切と思われる対応については、都度指摘しあったり、ユニット会議を活用したりして改善を試みている。	職員は個人情報の保護を理解し守秘義務に徹しています。一人ひとりの人格を受け止めプライドやプライバシーを損ねない声かけの対応が行われています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で小さな自己決定の場を設けている。表情や反応を見ながら選択肢を設けたりもしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の始まりに、どのように過ごすか問いかけたり、月末に自治会で意向を確認したり、一人ひとりのペースを大切に希望に沿った生活を送れるように支援している。柔軟に対応できるよう、タイムスケジュールを設けていない。希望に合わせて、気軽な外出等を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝時はパジャマに着替えていただいている。朝の着替えの際や、入浴の準備の際は、衣類を選んでいただいている。また、整容が乱れないように、整髪や髭剃り、目やなどに注意している。隣家の美容室へ、パーマ、散髪、毛染め等出来るよう支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を共に収穫したり、誕生日になじみの食堂等へ外食したり、午後近所の里味に行ったり、食事が楽しみなものになるよう工夫している。また、個々の能力に応じて、食事作りや配下膳に利用者が参加している。会話を楽しみながら、職員も共に食事をしている。	食事に関する作業について職員は入居者の一人ひとり、張り合いや生き甲斐につながるよう場面作りに努めながら一緒に行っています。食事の前には職員から作業の労をねぎらう言葉とメニューの説明があり、入居者のご挨拶で食事が始まりました。入居者が楽しく食事が出来るよう雰囲気作りやイベントなど四季折々工夫されています。食育を学んだ職員が入居者らの食生活を支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所内に栄養士の配置がないため、カロリー計算は出来ていない。食事量や水分量はチェック表で把握し、嗜好を元に代替の料理を用意したりして必要量食事摂取できるようにしている。主治医の往診の際は、食事量も含めて報告している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にうがいと手洗いを、毎食後に口腔ケアを行っており、口腔内の状態確認に努めている。適時必要な方には介助を行う等、個々に合わせた対応を行っている。隔日に義歯洗浄剤で消毒したり、週末に口腔ケア物品を消毒したりもしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄チェックを行い排泄パターンに基づき、定時のトイレ誘導ではなく、一人ひとりの癖や特徴を把握し、自然な流れで排泄介助を行っている。開所時、職員がオムツをつける研修を行い、オムツを使わない介護を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを活用しながらトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行われています。自宅でポータブルトイレを使用していて安心ということで居室に置いている方もいます。リハパンツや布パンツにパットなど本人に合わせたものが使われています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に毎日の排泄状態や量、回数、水分摂取量等の観察記録を行っている。便秘気味な方には起床時冷水を提供したり、水分を多めに摂ったり、オリゴ糖を使用する等個別に対応している。また、毎日牛乳や、繊維質の多い野菜の摂取を心がけた食事を提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	これまでの生活習慣や希望に沿って、本人が望む時間帯にゆっくりと入れるよう対応している。夜間の入浴や、毎日入浴することもできる。入浴剤を入れたり、仲の良い者同士で入浴したり、楽しめるようにしている。また、年一回の温泉ツアーや足湯等の機会を設けている。	お風呂は毎日準備して入居者の希望に沿った支援が行われています。毎年床のワックス掛けの日は全員で温泉ツアーに出かけたり、玄関先での足湯なども取り入れながら一人ひとりが気分よくゆっくりと入浴出来るよう取り組んでいます。入居者が安全に入浴できるよう配慮されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出したり、学習療法で頭を使ったり、フリーマーケットの出品作品を作成したり、壁に飾る貼り絵等の創作活動など、余暇を充実させることで安眠に繋がる様に支援している。日中無理しないよう、表情を読み取りながら、適時休息が取れるよう声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に現在使用の薬の処方箋を分かり易くファイリングし、すぐに確認できるようになっている。薬の副作用や飲み合わせ注意事項を作成し注意している。内服時は、内服手順のチェック表に添って飲み込みまで確認を行なっている。また、薬の配薬確認も二重チェックしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かし、その方に適した役割を持って頂き、力を発揮して頂いている。行事等も含め、外出等も積極的にやっている。生活歴が間違った先入観にならないよう、本人の意向も大切にしている。入居してから始めた活動が楽しみでもあり、役割とさえ感じている方もいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の食材は、業者が配達しているが、日用品等については、日常的に近隣のスーパー等に利用者と共に出かけている。天気と相談して近隣を散歩したり、ホームの軒先でお茶を飲んだり、施設内に閉じこもることのないようにしている。季節に応じて市へ出かけたり、ピクニックをしたり、外出が生活の一部となっている。カンファレンスを自宅で開催したり、家族の協力を得ることもある。	天気の良い日は庭や事業所周辺を散歩し気分転換に努めています。季節ごと地域で開かれるイベント外出、四季折々の自然を楽しむドライブなど積極的に外出の機会を設けています。希望があれば個別の外出支援も行っています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物好きな方や、お金があることで安心される方には可能な限り所持して頂いている。買い物で外出した際、支払いの援助も行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が利用できるように、事務所以外にも子機が設置されている。携帯電話を所持している利用者もいる。大切な人との関係が途切れないように、手紙を受け取ったら返信できるようお手伝いしたり、贈り物が届いた際にはお礼の電話が出来るよう声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝利用者と共にホールを掃除している。夜間は夜勤が水モップをかけ、清潔に努めている。利用者同士が良好な関係を保てるように、意見を聞きながら家具の配置を行っている。季節の花を飾ったり、年中行事にちなんだ貼り絵を飾ったりして季節感が味わえるようにしている。ホール内の扉が全て同じなので、目印となるように暖簾等で工夫している。	食堂兼居間は広々としているためタタミコーナーやソファコーナーを置いて入居者らがその時の気分で好きな場所でのんびり過ごせるよう工夫されていました。居間の隅にはペットのウサギが飼われており入居者が交代で世話をしています。流し台からを挟んでユニットが向かい合わせにあり入居者らはそこからお互いに顔を合わせたり話も出来ません。室内には12月には珍しい暖かな陽射しが射し込んでいました。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適時、ソファやテーブルの位置や場所を工夫して、利用者の関係作りにも配慮し、それぞれが思い思いに過ごせるように努めている。ホール内の畳みコーナーでは、気軽に横になる事が出来、玄関横にDVD鑑賞用にスペースを新たに作った。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持込がない方でも、自分で作った作品や、写真などを壁に飾ることで、安らぎや安心感につながるよう配慮している。週一回ベッドカバー等リネン交換を行い、適時部屋の掃除を行い居心地よく過ごせるよう努めている。	使い慣れた家具、鉢植えの花や観賞植物、家族写真などがベッドを囲むように置かれ自宅の様に居心地良く過ごせるように工夫されていました。自宅から馴染みの物を沢山持ち込むことで自宅に戻れないと心配する入居者には入居後、作った小物や外出時の写真を飾るなど工夫されていました。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に個別ののれんを飾ったり、トイレや浴室等にもさりげない表示を行い、環境面の配慮を行っている。		